

信州白樺高原
北化だより

しらつゆ
白露の秋澄む
信州 白樺高原

令和7年 秋

第105号

編集・発行



信州リゾートサービス株式会社

〒384-2309 長野県北佐久郡立科町芦田八ヶ野 210
TEL(0267)55-7777 FAX(0267)55-6018
<http://www.sresort.jp/> E-mail:info@sresort.jp

今年の夏は…

地元deぐるめ 茅野市&富士見町エリア

秋の信州

てくてく ちょこっとりっぷ

東御市

ちょこっとおでかけ

安曇野市 安曇野高橋節郎記念美術館

知って得するコーナー

蓼科の水と立科の里

白樺高原から里へ

大いなる水の旅



女神平別荘K様 提供(コムクドリ)



B棟より車山とアルプスを望む
Y様 提供(2024.10.6撮影)

いじわるばあさん



Guide
 住 所 茅野市北山3434-1
 ☎ 0266-78-2051
 営業時間 11:30 ~ 15:00
 17:00 ~ 20:00
 定休日 木曜日、金曜日

茅野市北山に、いじわるばあさんという何とも興味深いネーミングのレストランがあります。親子(お母さんと娘さん)お二人で営んでいます。お店をオープンしたのは41年前の1984年で、地元のお客様からも長年愛されているお店です。お店の名前とは真逆で、いじわるどころかとてもやさしくてほっこりするお二人です。

いじわるばあさんという命名について娘さんに質問したところ、「インパクトがあって覚えやすい名前をと

いうことで母が付けました。特に深い意味は無いんですよ」と明るくお応えいただきました。(確かにこの名前は忘れないかもしれませんね。)

私が伺った日は、おいしいお料理とお二人に会うのが楽しみなお客様で賑わっていました。「いじわる娘自家製のチーズケーキ」というメニューも魅力ありましたが、今回は味わえなかったので、次回は是非いただきたいと思います。

また行かせていただきますーす。

地元で 地元のめ



なとりさんちのたまごや工房



Guide 八ヶ岳店
 住 所 諏訪郡富士見町富士見261-4
 ☎ 0266-78-8186
 営業時間 10:00 ~ 18:00
 定休日 火曜日

「たまごの工房」が行き着いたというスイーツとグルメ専門店です。諏訪地方に3店舗あります。オリジナルたまごを使用したスイーツとグルメは、このお店でしか味わえない絶品です。8月24日(日)八ヶ岳店に行きました。日曜日のランチ時間だったため、店内にはオムライスを召し上がっている家族で満席でした。この店舗ではスイーツとレモンジュースを購入し、お目当てのオムライスを求めて、10kmほど離れた諏訪店まで足を延ばしました。なんと！この店舗も駐車場は満車。1台空くのを待って入店しましたが、店内はお客様でいっぱい。結局この日、オムライスは諦めました。

今度行くときは絶対オムライス食べろぞ!!

2025 summer
信州 白樺高原

今年の夏は...

今年の夏も暑かったですね。テレビの画面には熱中症警戒アラートの文字が連日のように表示され、アナウンスでは「命の危険...」等ということばも発せられていました。9月になっても30度を超える日が続き、秋はやってくるのかと不安になる日もありました。9月7日過ぎから急に秋の気配がしてきました。

猛暑 酷暑の7・8月でしたが、ここは最高気温が25度(管理事務所計測記録)で、「別天地」という言葉がピッタリの場所でした。長期で滞在されたお客様も多く、こちらでの滞在を満喫されていました。

雨が降らず...

7月下旬から8月上旬、雨が降らない日が続く、農作物に影響が出ました。毎年7月中旬から発送・販売をしている「トウモロコシ」ですが、本来ですと8月中旬まで販売できるのですが、8月1日の販売が最後になってしまいました。収穫を目前にして、木が枯れてしまい、食べられる物ではないとのことでした。当社契約農家の方は「これも自然のことだからどうすることもできない。」と肩を落としています。

雨が降らないことで、お米作りにも影響が出るかと心配しております。たが、夢科山から流れる水のおかげで、今年も無事収穫ができるようです。

いつもはこの恵みの水に満たされている女神湖ですが、8月中旬～9月中旬、水位が低くなっていました。女神湖は昔「赤沼平」という沼地でした。その沼地を昭和41年に溜池として整備された人口湖なのです。その女神湖の水が、里の水田に流れ、恵の水となっていますが、あまりにも雨が降らなかったためにグッと減ってしまったのです。

(詳しくは、p6知って得るをご覧ください。)

通常の女神湖畔

今夏の女神湖畔



北国街道「海野宿」

重要伝統的建造物群保存地区
日本の道百選

海野宿は寛永2年（1625年）に北国街道の宿場として成立したとされ、今年400年を迎えました。

北国街道は、中山道と北陸道を結ぶ重要な街道で、佐渡で採れた金の輸送、北陸の諸大名の参勤交代のほか、江戸との交通も頻繁で善光寺への参詣客も多くありました。

海野宿は、江戸時代の旅籠屋造りや、茅葺き屋根の建物が調和した家並みが残っています。また、道の中央を流れる用水、その両側に立ち並ぶ格子戸の美しい家並みは、宿場の情緒が漂っています。

また、白鳥神社の境内中央にある、樹齢七百年を超えているというけやきの木は歴史を物語っており、木の下で目を閉じていると…上手く表現できませんが、「気」のようなものを感じました。



〈馬の塩なめ石〉
生活にも旅にも欠かせない存在だった馬が一息ついた場所



白鳥神社のケヤキ

海野宿資料館

この建物は江戸時代後期（1790年頃）に建てられた旅籠です。

玄関の東には馬屋があり、お座敷や囲炉裏も残っていて、江戸時代の雰囲気包まれています。まるで時代劇の主人公になったような気分になれる建物です。



伝統的な建造物の意匠

「本うだつ」は江戸時代のもの、「袖うだつ」は明治時代のもので、どちらも富裕な家であればできるものではありませんでした。このようなところから「うだつがあらぬ」という言葉も生まれました。

「海野格子」と呼ばれている格子は江戸時代のもので、2階の出格子に見られます。海野宿特有の美しい模様を織りなしています。



イベント

海野宿
ふれあい祭り
開宿 400 年記念

日時: 11月2日(日) 9:30 ~ 15:00
場所: 海野宿街道周辺(歩行者天国)

時代仮装行列や、人力車も繰りだし、往時の宿場の賑わいが甦ります。

東御市は、2004年（平成16年）、小県郡東部町と北佐久郡北御牧村が合併して誕生しました。北には浅間連山、南は蓼科、ハケ岳の雄大な山並みが見られます。市の半分以上が山林、4分の1が田畑で、東西に流れる千曲川と合わせて自然豊かで美しい風景が広がっています。農畜産物がとても美味しく育つため、多くの名産品、特産品が生まれています。また歴史的に魅力のある町でもあります。その東御市の中で今回「湯の丸高原・池の平湿原」と「海野宿」をご紹介します。

湯の丸高原・池の平湿原

標高
2,000m

6月5日湯の丸高原、池の平湿原へ行ってきました。湯の丸高原といえば、レンゲツツジが有名ですが、この日はレンゲツツジの花は未だ満開になっておらず、今回は池の平湿原をウォーキングしてきました。6月湿原には高山植物のイワカガミが咲いていました。またニホンカモシカと思われる野生動物も現われ、撮影することができました。

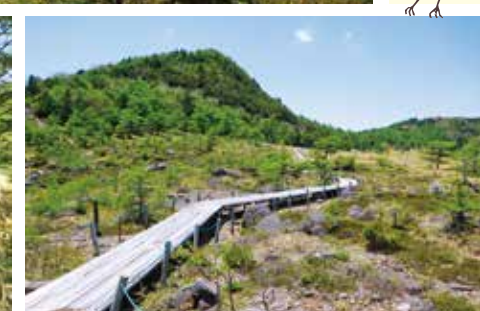
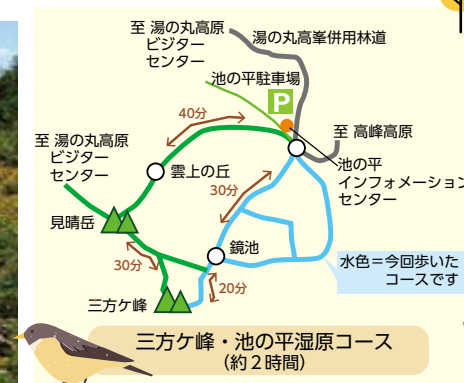
池の平湿原は、数万年前の三方ヶ峰火山の火口原に広がる高層湿原です。池の平周辺の浅間山麓一帯の地域は、温暖な里山から、一気に標高2000m超の山頂へと急峻な地形になっています。そして内陸性気候ということから昼夜の気温差、年間の気温差がとても大きく、特色ある気候条件にあります。

そのため里山に生息する動植物から、本来ならば3000m級山岳地帯に見られるような高山性の動植物まで、この狭い一帯に混在し生息しているのです。そのような特有な環境が、「高山植物の宝庫」としてくれたのです。今回は撮影できませんでしたが、花を求めて集まるベニヒカゲやミヤマモンキチョウ、ミヤマシロチョウなどの貴重な高山蝶も見られるということです。

これから秋のシーズンは周辺の山々が色づき夏とは違った風景が楽しめます。



湯の丸・三方ヶ峰から望む蓼科山



偶然出会ったニホンカモシカ



イワカガミ

蓼科の水と立科の里

女神湖について

今年の夏、女神湖の水がグッと減ってしまいました。その女神湖について調べました。(参考図書：立科町誌)

女神湖は赤沼と呼ばれた湿原でした。この湿原に溜池を造ろうと、「塩沢堰」の余水を利用して赤沼貯水池の造成を計画しました。昭和17年に着工、当時は第二次世界大戦の最中で労働力が不足し、ほとんどが蓼科農学校(現蓼科高等学校)生徒の勤労動員で工事が進められました。しかし、地質が不良のため工事中止となり、未完成のまま終戦を迎えました。

その後、昭和37年に赤沼ため池工事が再開され昭和41年11月に完成しました。女神湖の恵水は、立科から八重原、更には御牧ヶ原台地に行き渡り、蓼科北麓の農業用ため池として大きな役割を担うと共に、美しい自然を求めて多くの観光客が訪れ地域繁栄の礎となっています。

【女神湖の名前の由来】

蓼科山は、古来、女の神山と呼ばれていました。女の神山の水をたたえ、湖面にその姿を映すことから、「女神湖」と名付けられたそうです。ビーナスラインも女の神山に由来する名です。

塩沢堰について

女神湖の水は「塩沢堰」の余水を利用していますが、塩沢堰を開削したのは「六川長三郎勝家」という方です。

立科町は古東山道をはじめ中山道や宿場など歴史的文化遺産も豊富です。しかし、立科の台地には河川が少なく荒地が多かったようです。

六川長三郎勝家は、江戸時代初期、蓼科山の裾野に水源を探し当て、1641年私財を投げ打って開削しました。現在のような道具が無かった当時。想像を絶するような苦勞をされたと思います。石だらけの場所、水が岩の間に漏れてしまい、布団綿を詰めるなどの工夫をしたと記録がありました。

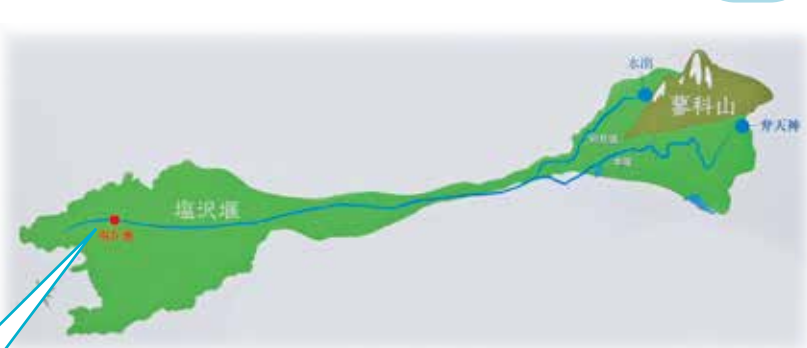
約6年の歳月を費やし、1646年、延長約55kmの堰が完成しました。この堰ができたことにより、広大な未開の台地に次々と新田が開発され、そこに集落が形成されていきました。立科の里を潤す主要な水源の一つであるのが、疎水百選になっている「塩沢堰」です。



▲六川長三郎勝家生誕家



▲中央を流れる水路が「塩沢堰」



▲塩沢堰が潤す立科の水田

安曇野市

ちょこっとおでかけ



安曇野市は、平成17年(2005年)10月1日に、豊科町・穂高町・三郷村・堀金村・明科町の5町村が合併して誕生しました。「安曇野」と聞いて皆様は何を連想しますか? 広大な北アルプスの景色やわさび農園、冬には犀川の白鳥なども有名で、過去に本誌でもご紹介しました。

その安曇野に8月28日行ってきました。市内を走行していると「安曇野アートライン」という看板が目に入りました。これは、安曇野市から池田町、松川村、大町市、白馬村にかけての約50km地域に20近くの美術館や記念館、博物館が点在するアートのルートということで名づけられたようです。この地域には、ヨーロッパの近代美術から日本の近代彫刻、絵画、山岳美術、絵本の原画、陶器、写真など多彩な展示が楽しめる施設がたくさんあります。今回、その中の一つ「安曇野高橋節郎記念美術館」をご紹介します。

「安曇野高橋節郎記念美術館」

高橋節郎氏生誕の地に、2003年に開館したこの美術館は美しい北アルプスの麓に建ち、目の前には田園が広がっています。敷地内には国登録有形文化財に指定された生家(旧高橋家住宅)があります。茅葺屋根の主屋、蔵、庭園に入ることでもでき、過去と現代を行き来しているような感覚になります。

高橋氏は漆工芸の技法を用いつつ、現代的な独自の、漆の世界を開拓。1997年には文化勲章を授与されました。館内の作品一つ一つがものすごく繊細で丁寧で、安曇野の自然や澄んだ空気、夜空に輝く星などを見ているような感覚になり、漆に懸けた高橋氏の人生がぎゅっと詰まっています。感じがしました。今まで美術工芸品等にあまり興味が無かった私ですが、観覧した後、興奮して胸がギュッとするような不思議な感情になりました。

皆様にも是非行っていただきたい美術館です。



沈金講座作品公募展 開催中

2025年9月13日(土)～
12月14日(日)

安曇野高橋節郎記念美術館

住 所 ▶ 安曇野市穂高北穂高408-1

電 話 ▶ 0263-81-3030 FAX ▶ 0263-82-0551

休館日 ▶ 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、当該日以後の祝祭日に当たらない最初の日) 12/28～翌1/4

開館時間 ▶ 9時～17時



▲《星座煌煌》1988年



展示室内

白樺高原から里へ 大いなる 水の旅



夢科山に降った雨が伏流水となり、夢仙の滝に流れ、御泉水の地にも沁み込んでゆく。その沁み込んだ水は女神湖にも流れる。そしてその水は立科の里へと流れて行く。その間の時間はいつたどれくらいだろうか？ 1年、5年、それとも10年なのかわからないけれど、今日も明日も旅を続け、里の人々や自然、農作物を潤している。



御泉水自然園 流川

夢仙の滝

御泉水自然園駐車場から400メートル程山道を歩いて行くと、山奥の源流といわれる「夢仙の滝」があります。（心も身体も浄化してくれそう！）



ホトトギス



ホシガラス



ホオジロ

野鳥写真提供
女神平別荘K様

鳥のさえずりで目覚める朝
清らかな水
澄み渡る青空
美しい山々の風景
ゆったりとした時間が流れていく
ここには、先人の方々が残してくれた歴史の痕跡があり、そこに息づく知恵と思想がある。
このような素晴らしい場所をこれからもずっと大切にしていきたい。

編集後記

猛暑の夏が去り、今年も周辺の山々の装いが秋色に変わってきました。季節はじっとしておらず、絶えず移ろい変わっています。

窓の外から聴こえる鳥の声、時々姿をみせるかわいいリス、女神湖を優雅に泳ぐカモたちに何度も癒され、元気をいただいています。

今夏もたくさんのお客様とお会いしてお話させていただきました。また、花だよりの取材で初めてお会いした方々からお話をお聞きしました。いじわるばあさんという名前のお店だけでなく、とっても優しいお母さんと娘さん、安曇野高橋節郎記念美術館で対応していただいた、素敵な学芸員の方々や関係者の皆様、本当にありがとうございました。

今日という日は二度と来ないかけがえのない一日だから、有意義に、そして大切に過ごしていきたい。そんなことを思った令和7年の夏の終わりと秋の始まりでした。

信州リゾートサービス(株)一同

※弊社ホームページをご覧ください。

